

公益社団法人 日本看護協会

会長 福井トシ子殿

今後の看護倫理に関わる課題への取り組み方についてのご提案

新型コロナウイルス感染症のパンデミックをはじめ、保健医療を取り巻く状況に厳しさが増している中、日頃から医療における専門職者である看護職の地位向上と活動の支援を頂き、看護における倫理を探究している学会として、感謝申し上げます。

この度、貴協会より「看護職の倫理綱領（案）」についてパブリックコメントの募集が行われました。数年に及ぶ改訂に向けた取り組みの結果であると拝察いたします。現行の倫理綱領の曖昧な点の改訂、新しい時代に向けた新たな行動指針が含まれており、専門職者である看護職の基本的な行動指針の基盤になると期待します。

さて、職能団体である貴協会と学術団体である当学会との関係につきまして、かねてより活動の独立を図りながらも緊密な連携を取ることで双方により実り多いものとなり、ひいては看護職の利益につながると感じておりました。しかしながら、今回の改訂に際して、それは実現しませんでした。これは当学会の情報収集力不足を露呈するものでもあります。今回の貴協会 HP の「新着情報」を見て、初めて今回の改訂について知った次第です。

職能団体が提示する行動指針に対して学術的にどう検討を進められるかについては、議論や見解の違いがあるかと思います。ただ、すぐ近くに利用、相談できる団体があるのに、その利用、相談をして頂かなかったことを残念に思います。当学会は、創設して13年を数え、約1,000名の会員を有しております。そして、看護に関わる多くの倫理的問題について報告し、また問題解決のための方策を学術誌および学術集会を通じて示してきております。

今後の「看護倫理」に関する検討事項につきまして、一緒に検討できる道が徐々に開かれることを期待しております。

また、改訂の検討過程について、HP上に明確に提示されておらず、どのような過程を経て倫理綱領の改訂に至ったのか不明です。委員会が設置されたのか、されたのであれば委員はどなたが担われたのか等の情報を開示していただけると幸いです。さらに、パブリックコメントの周知について、協会新聞を利用されるなど、より多くの会員に知ってもらうための周知の方法をご検討されることを望みます。今回のパブリックコメントに気づかなかった、また、時間に余裕がなく十分な検討ができなかった貴協会員の方々のために、もう一度パブリックコメントの機会を与您えいただきまようお願い申し上げます。

貴協会の今後ますますの発展を祈念するとともに、両者のより一層の連携、協働が図れることを祈っております。

令和2年11月16日

一般社団法人 日本看護倫理学会

理事長 八代利香